

インドロジスティクス調査団 2012

～インドの自動車、電機と物流インフラ(空港・港湾・鉄道)の視察～

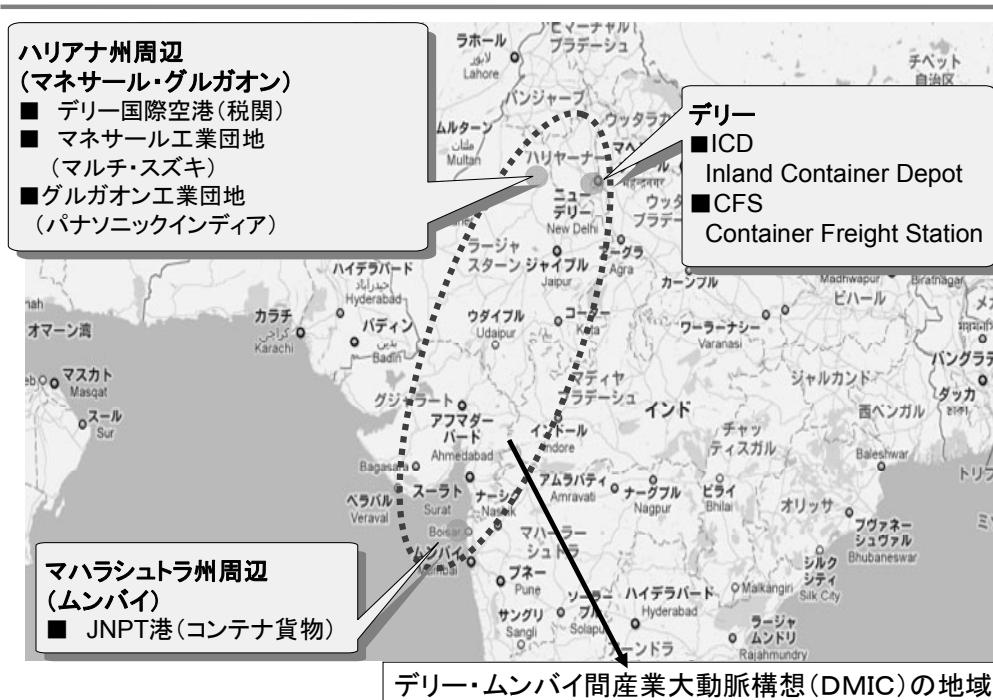
日本が初めて新興経済大国とのCEPA(包括的経済連携協定)をインドと発効したことをトリガーとして、日系企業におけるインドビジネスの拡大が期待されているなか、物流インフラや制度、流通等がネックとなり、日系企業のビジネス展開にも大きな課題となっています。

このような状況の中で、日本の物流システム・技術を活用し、インドの物流・流通の課題解決に寄与することにより、日印双方にとってメリットが享受できる「ロジスティクス」について、インド現地を訪問し、物流事業者等のロジスティクス・ビジネスの開発、拡大や製造業・流通業等における物流ネットワークの構築、改善を図るための情報収集を支援いたします。

また、今回の調査団では、円借款プロジェクトである「デリー・ムンバイ間産業大動脈構想(Delhi-Mumbai Industrial Corridor : DMIC)」の「大動脈地域」の出入口の重要な地域である、デリー、ハリヤナ州のマネサール・グルガオン、マハラシュトラ州のムンバイをロジスティクスの視点から視察する貴重な機会となります。

関係各位の積極的なご参加をお待ちしております。

インドロジスティクス調査団 訪問地域(予定)



開催日程: 2012年3月18日(日)～23日(金) 6日間(5泊6日/復路の機中1泊含)

訪問地域: インド・デリー、ハリヤナ州(マネサール、グルガオン)、マハラシュトラ州(ムンバイ)

参加対象: インドのロジスティクスに関心のある製造業、物流子会社、流通業、物流業、その他サービス業の方々

【日 程 表】 ※都合により、予定を変更することがございますので、予めご了承ください。

日程	訪問先
1日目 3月18日(日) デリー泊	成田11:25→デリー18:20(昼食・機内) JL749 □着後、ホテルへ移動、市内で夕食 【宿泊・アバロン・コートヤード】
2日目 3月19日(月) デリー泊	午前 1)デリー市内CFS(コンテナ貨物駅)視察 □移動途中にデリー市内で昼食 午後 2)デリー市内ICD(内陸コンテナデポ)視察 □視察了後、デリー市内で夕食 【宿泊・アバロン・コートヤード】
3日目 3月20日(火) デリー泊	午前 3)マネサール工業団地視察(マルチ・スズキ訪問) □移動途中に昼食 午後 4)デリー国際空港・税関視察 5)パナソニックインディア訪問 □視察了後、デリー市内で夕食 【宿泊・アバロン・コートヤード】
4日目 3月21日(水) ムンバイ泊	早朝 デリー → ムンバイへ移動(国内線飛行機) 午前 6)インド大手物流事業者訪問 □移動途中に昼食 午後 7)JNPT港(ナバシェバ港)視察/コンテナヤード等 □視察了後、デリー市内で夕食 【宿泊・インターコンチネンタル ザ ラリット】
5日目 3月22日(木) 成田着 3月23日(金)	午前 ムンバイ市内視察 □移動途中に昼食 午後 ムンバイ → デリーへ移動(国内線飛行機) デリー20:20→成田07:10/(機中泊) JL740 着後解散

※往復共に、日本航空による直行便を利用いたします。

※上記工程の昼食・夕食も全て費用に含まれております。朝食は宿泊ホテルでのご提供となります。

※ホテルは全てシングルユースとなります。

※デリー⇄ムンバイは国内線飛行機、その他の移動は、専用バスを使用いたします(日本語ガイド付)。

※デリーの宿泊先「アバロン・コートヤード」は、日系ビジネスマンに多く利用されているホテルです。

【インドロジスティクス調査団 訪問予定企業の概要】

マルチ・スズキ・インディア Maruti Suzuki India Ltd. 本社：デリー

インドにおける自動車産業のパイオニア的存在。もと、1982年にインド政府とスズキの合併で発足。その後、スズキが出資比率を順次引き上げ、02年には経営権を掌握し子会社化した。11年3月には83年の操業開始以来の累計生産台数1000万台を達成した。現在、ハリヤナ州マネサルで第二、第三工場の建設を進めており、15年度までに年間販売台数を現在の倍の250~300万台に引き上げることを目指している。また、今年10月末には、グジャラート州メーサナに敷地面積約400万平米程の新工場建設を決定した。年産能力は200万台規模の予定。

パナソニック・インディア Panasonic India Pvt. Ltd. 本社：グルガオン(ハリヤナ州)

1972年インドでのビジネススタート。現在パナソニック・グループの人員は、2010年9月末時点でおおよそ1万人。グループ全体の売上は2009年度が490億円。2012年度の売上目標額は2009年の4倍弱の2000億円を目指している。国内に110ものブランドショップ、700のサービスセンター、22箇所の支店を設置、複数のインド法人を通じて、家電製品、テレビ、健康・美容製品、乾電池、乾電池用炭素棒、OA用品、通信機器、コンピューター、プロジェクター、セキュリティ・システムなどを販売している。同社の発表による市場シェアは、エアコンが8.5%、液晶テレビ(LED=発光ダイオード=液晶テレビを含む)が約8%、プラズマ・テレビが50%。来年度は、エアコン12%、液晶テレビ18%、プラズマ・テレビ60%を目標にしている。2015年度までに世界売上に占めるインドの割合を約5%、売上2,500億ルピーまで引き上げることを目指しており、来年11月操業予定でハリヤナ州ジャッジャルに建設中の新工場のほか、2015年までにさらに工場を設ける可能性もあるという。

ICD(Inland Container Depot) / Tughlakabad

デリー市内に位置し、インド北部を中心に輸出入物流の拠点となっている。南部・西部などで引き揚げられた貨物の多くが鉄道で運ばれ、デリー市内のTughlakabad(ICD)を拠点に各地に向け出荷・納入される。運営・管理は、インド最大物流会社であるCONCOR(インドコンテナ鉄道輸送会社)による。

デリー国際空港：正式名：インディラ・ガンジー国際空港(IGI) ※空港税関も視察予定

インドの玄関口であり、GMRエアポーツ社により運営されている。2010年秋に、デリー空港をハブ空港とすることを目的に新ターミナル(T3)が完成した。2008年度のIGIの国内・国際輸送における貨物取扱量および郵便量はそれぞれ426263トン、12705トン(2008年度実績)(※主要運輸事情調査報告書(アジア地域)「平成22年度版」)2013年3月にはIGIに統合貨物ターミナルが建設される見通しで貨物取扱量は100万トンに増加する。IGIは貨物業務を重視しており、今後貨物コミュニティ・システムの創出に努めていく方針だ。

JNPT(Jawaharlal Nehru Port) ※コンテナヤードも視察予定

JNPT港はインドの最大の商業都市ムンバイに隣接し、また北部のデリー首都圏へのゲートウェイとしても機能している。インドの急速な発展に伴い、自動車部品、電気製品・部品、繊維製品、医薬品などの品目を中心とする輸出入の伸びが著しく、貿易全体に占めるコンテナ貨物が増加傾向にあり、それに伴いインド最大のコンテナ港であるJNPT港(インドのコンテナ取り扱いの約6割を占める)の重要性はますます拡大している(JNPT全取扱貨物の9割弱がコンテナ貨物、残り1割は石油等)。同港は、3つのコンテナターミナルを有し、それぞれのターミナルからは各地のICDへ鉄道が直結している。2009年度の(輸出入・積み替えベース)JNPTにおける取扱貨物量は6千万トン強で、国内のメジャーポート12港のうち、規模では4位を占める。(※インド・ASEAN流通ネットワーク調査 平成23年3月JETRO発行P.54-57参照)

デリー市内CFS及び敷地内倉庫、インド大手物流事業者(ムンバイ)

訪問先を選定中。

【参加定員】 20名 (最小催行人数: 10名)

※参加申込締切日: 2012年2月17日 (金) (お申込先着順・定員になり次第締め切らせていただきます。)

【参加料】 JILS会 員: 58万円 JILS会員外: 68万円 (1名・消費税込)

【お申込方法】

- ・下記申込書の所定事項をご記入の上、事務局へファクシミリ又は郵送でご送付ください。
- ・受付後、参加費のご請求書を送付いたしますので、所定銀行の口座 (請求書に記載) にお振り込みをお願いいたします。(お支払は原則として、出発日前日までをお願いいたします。)
- ・参加申込後にお客様の都合でお取消しされる場合は、下記の規定によりキャンセル料を申し受けますので予めご了承ください。

<キャンセル規定>

出発30日前~11日前 (出発日を含まず起算) ……参加料の10% 10日前~出発日3日前……………参加料の20%
 出発2日前……………参加料の50% 出発前日及び当日……………参加料の全額

注) キャンセルは、ファクシミリでのご連絡のみ、申し受けます。

【お申込・お問い合わせ先】 公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 本部 顧客サービス部

〒105-0014 東京都港区芝2-28-8 芝2丁目ビル3階 TEL 03-5484-4021 FAX 03-5484-4031

インドロジスティクス調査団2012 申込書

フリガナ 氏名			男 女	生年月日	西暦 (大正・昭和・平成 年 月 日 (満 歳)
ローマ字 (ハ゜スポーツ記載)	姓		名		
現住所	〒	—	TEL	()	
	フリガナ		携帯	()	
勤務先名			御役職		
勤務先住所	〒	—	TEL	()	
渡航中の 緊急連絡先	<input type="checkbox"/> 現住所に同じ、 <input type="checkbox"/> その他住所[]				
	氏名	続柄	TEL	()	
パスポート	現在有効な旅券(パスポート)をお持ちですか? () 持っている () 持っていない ※入国ビザ取得のために別途費用がかかる場合がございます。				
	有効な旅券の お持ちの方は 御記入下さい。	旅券番号	発行年月日	年	月 日
					<input type="checkbox"/> 10年用 <input type="checkbox"/> 5年用
喫煙	() 喫煙する。 () 喫煙しない。				
書類ご送付先	今後の視察に関するご連絡および書類送付先をお選びください。 <input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 勤務先 <input type="checkbox"/> その他 ()				

【旅行代金に含まれるもの】

- ・航空運賃: エコノミークラス使用 ・日本航空燃油サーチャージ & 航空保険料、成田空港使用料、各国空港税など
 - ・ホテル代 (1名1室利用) ・食事代/朝食4回、昼食4回、夕食4回 (一部変更あり) ・専用バス代/現地ガイド料 (日本語)
 - ・日程表に明記分 (団体行動中の移動など) ・団体行動中の心付け (チップ)
 - ・手荷物運搬料: 運搬機関の規定内手荷物運搬料金 ・添乗員経費
- ※燃油サーチャージ等の金額に変更が生じた場合、差額のご請求をさせていただく場合がございますので予めご了承ください。